

# 薬草園の花だより

第9号

2018年(平成30年)5月12日発行

## ■第9号に寄せて

良い季節となりました。新入生の皆さんたちも大学生活にだいぶ慣れてきたのではないか。大学内には講義や実習のための施設、スポーツ施設などの他、自学・自習ができる図書館、薬学系大学に特徴的な薬用植物園、そして、本学に特徴的な漢方資料館もあります。ぜひともこれらの施設を大いに活用していただきたく存じます。薬用植物園は体育館の裏手にあり、広い敷地内に圃場や温室を備えています。今年から、温室の中央部分をサロン風にしました。薬用植物園は、本学の教職員・学生なら自由に見学できますので是非足を運んで散策しながら、薬用植物を学んだり観察を楽しんだりしてください。今年の春は実に早い駆け足で到来し、今また駆け足で通り過ぎようとしています。まさに、あっという間に様々な草花が花を着け、あっという間に散ってしまうので、これらの植物の活動に追いつくのには植物園にて実際の植物を見るのが一番です。

今春の薬用植物園を御覧になった方は、植栽されている薬用植物の種類がかなり増えたことに気が付かれたと思います。



去年の秋から種々の仕掛け（新しい植物の植え付け）をしたからです。今も種々の植物が花を着けていますが、今年は、ちょっと珍しいと思うものとして、バイモ（ユリ科）の変わった形の結実がみられます。バイモは生薬バイモ（貝母）の基原植物です。貝母は中国ではペイムと発音し、その主たる含有アルカロイドのペイミンはこの名称からの命名です。また、キャンパス内にはアカメガシワ（トウダイグサ科）があちこちに育っています。アカメガシワも薬用に使用され、その主成分はタンニン類のベルゲニンです。やがて大木となります、その幼木を上から見ると、その



バイモ(アミガサユリ)の結実



トウゴマの芽生え

命名の由来は一目瞭然です。

一方、トウゴマ（トウダイグサ科）の芽生えがそろいました。この植物は種子も大きく美しいですが、播種すると、赤子の手のひらほどもある大きな双葉を出し、これもとてもかわいいものです。この植物は夏を過ぎる頃にはまさに見上げるほどの3メートルにもなりますので、かわいいのは今のうちだけ。そして、トウゴマの種子にはこれまでに人類が遭遇した強力な毒としては間違いない10指に入るリシンが含まれています。（船山）

## ■今咲いています・見頃です

### 《ボタン》

よく「立てばシャクヤク坐ればボタン歩く姿はユリの花」といわれる花のひとつとしても知られているボタンですが、この植物はもともと、奈良時代の末ころに遣唐使が中国大陆から薬としてわが国にもたらしました。その別名を「花王」ともいいうように、その花の開花した様はすばらしいものです。福島県須賀川市に有名な牡丹園がありますが、ここ



ボタン

のボタンも、もともとは薬用として栽培を始めたものとか。ボタンの根皮はボタンピと称して使われますが、この際、芯の部分が抜き去られます。これに対して、同属のシャクヤクから調製されるシャクヤクの方はこの操作はしません。それぞれの含有成分にも違いがあります。また、ボタンは木本であるのに対してシャクヤクの方は草本で、冬場には地上部がなくなります。シャクヤクはボタンより少し遅れて花を咲かせますが、薬用植物園のシャクヤクももう少しで開花しそうです。

### 《カロライナジャスミン》

今年も薬用植物園の温室の南側の圃場にカロライナジャスミン（ゲルセミウム科, *Gelsemium sempervirens*）がたくさん黄色い花を着きました。とても目立つ花で、しかも香りもいいので観賞用の植物としてでまわっていますが、実は、この植物にはゲルセミンなどの猛毒のアルカロイドが含まれていてまさに危険な有毒植物でもあります。その名前からジャスミン茶の原料と勘違いして、お茶にして飲んで中毒した例もありますから注意が必要です。

同属のゲルセミア・エレガンス (*G. elegans*) は中国原産で、その根の乾燥品は冶葛（やかつ）という生薬の基原植物です。実は、756年（天平勝宝八歳）に奈良の正倉院に奉納された生薬のひとつであった冶葛は永らく謎の生薬でしたが、その基原植物は1998年になってから、千葉大学薬学部の相見教授により解明されました。すなわち、残されていた生薬の一部を抽出し、その化学成分を高速液体クロマトグラフィーにて精製し、NMRスペクトラルを解析することにより、含有アルカロイドが解明され、冶葛の基原植物が明らかとなったのです。

冶葛の名前は、当時正倉院に奉納された生薬60種のリストである『種々薬帳』にも末尾に記載されていますが、現在の残量（390 g）は当初奉納されたとされている量（7.68 kg）と比べるとかなり減っています。このように毒性の高い植物を基原とする冶葛がどういう目的で使われたのかは未だにわかっていません。ごく最近も中国にてこの植物の葉を鍋物に入れての毒殺事件が起きています。



カロライナジャスミン

## ■最近のベストショットから（1）

今回の「薬草園の花だより」が刊行されるまでにキャンパス内にて撮影された写真から、薬用として使われているか否かにかかわらず、花のベストショットを選び出してみました。写真の後にあるのは撮影者名で、YKとあるのは薬草園で植物のお世話をされている野本有香さんによるもの、SFとあるのは船山園長によるものです。



ポケ (YK)



レンギョウ (YK)



シャガ (SF)

お次に、色々な花々の中から、はづかの花の開花の時期を見逃したのではないか。今年のボケはとくに見事でした。また、レンギョウの花も素晴らしいです。シャガは薬用植物園内やキャンパスの何所かで今も咲いています。遠くから白っぽい花がたくさん咲いているのを見るのもいいのですが、近くで見るとこの花の美しさに見とれてしまいます。

## ■薬用植物園からのお知らせ

### 《次々に開花しそうです》

ここでは少ししか紹介出来ませんでしたが、薬用植物園にては種々の植物の開花が続いています。大いに楽しんでください。紹介する前に散ってしまいましたが、今年のフジの花は見事でした。近々の開花予想としてはジギタリスが咲き始めますし、トリカブト類もぐんぐん伸びてきました。また、ジャーマンアイリスが花盛りです。アヤメ（サキガケアヤメ）はまもなく咲き終えますが、まもなく、アジサイも観賞することが出来るようになることでしょう。水生植物のコーナーではコウホネが花を着け始めていますし、食虫植物のサラセニアなどもいすれ開花します。さらに、今年は、原市沼のハス（古代蓮）の塊茎を手に入れて植え付けました。今、葉を出し始めましたので、この開花も楽しみです。

発行：日本薬科大学薬用植物園管理運営委員会  
委員長（薬用植物園長）／船山信次  
副委員長／山路誠一  
委員（教員）／野口博司・西川由浩  
新井一郎・糸数七重  
委員（事務）／今村隆・笹井彰・鈴鹿和子  
土屋翔太郎・佐藤智恵・黒木重夫